

本書の掲載内容に下記の誤りがございました。  
ご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。  
(2021年12月1日更新)

## 第2～4刷訂正情報

P129 「強化ナシ学習」パラグラフの上から7行目

### 【誤】

■「次元圧縮」などに用いられます。

### 【正】

■「次元削減」などに用いられます。

※Dimensionality Reduction は「次元圧縮」「次元削減」どちらでも訳としては問題ありません。今回は、P158の図版の表記に合わせ、訂正いたします。

## 第1刷訂正情報

P07 目次見出しの第0章4節目

### 【誤】

■DXはITの役割や係わり方を大きく変えてしまう

### 【正】

■DXはITの役割や関わり方を大きく変えてしまう

P08 目次見出しの第2章3節目

【誤】

■IoT のたらず 2 つのパラダイム・シフト

【正】

■IoT のもたらず 2 つのパラダイム・シフト

P11 目次見出しの第 5 章 14 節目

【誤】

■ブリックを組み合わせで最適なサービスを実現するマルチ・クラウド

【正】

■パブリックを組み合わせで最適なサービスを実現するマルチ・クラウド

P70 図版上部ハードウェア・ソフトウェアの説明

ハードウェアとソフトウェアの説明が入れ替わっていました。正しくは以下の通りです。

ハードウェア

物理的・物質的なモノでしか実現できない部分

ソフトウェア

プログラムで制御または実現できる機能・性能

P96 図版上部 「走行アルゴリズム」の下

【誤】

教科学習

【正】

強化学習

P102 図版下部 「インダストリー3.0」および「インダストリー4.0」の説明

第1次産業革命と同じ説明が入っていました。正しくは以下の通りです。

インダストリー3.0

コンピュータ

労働力を機械に置き換え

インダストリー4.0

デジタル

生産性を維持し個別最適

P174 図版下部 「2015~/コンテナ」の下

左上、APが見切れていました。

P175 第5段落「2000年代～」上から9行目

【誤】

離・独自のシステム管理とユーザーグループを持つための「コンテナ」が登場

【正】

独自のシステム管理とユーザーグループを持つための「コンテナ」が登場

※「離・」を削除

P182 図版下部

以下の文面を追加

コンテナレベルで稼働は保証されている

P183 第3段落「この～」上から11行目

【誤】

RedHat

【正】

Red Hat

※間に半角空白を追加

P303 第1段落「一般的な～」上から3行目
------------------------

【誤】

Block chain

【正】

Blockchain

※間の半角空白を削除